

地方創生拠点整備交付金事業（R3年度分）の効果検証結果（各交付対象事業の重要業績評価指標（KPI）の実績値）

No	① 事業名	② 実績額（円） （交付金充当額）	③ 事業概要	④ 本事業における重要業績評価指標（KPI）			⑤ 本事業終了後における実績値		⑥ 外部有識者からの評価		⑦ 実績値を踏まえた事業の今後について		
				指標	指標値 ※令和2年度 終了時点	単位	実績値（増分） ※令和3年度 終了時点	事業効果	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由	
1	ローカルイノベーション促進施設整備事業	309,005,717 (154,502,858)	県内ものづくり企業の製品開発力、試験・評価技術の強化を図るため、今後のIoT推進を見据えた次世代型電波暗室を整備する。また、フードビジネス分野において、マーケットインの視点に立った食品製造業者による商品開発を加速化させ、売れる商品の開発による売上増加を図るため、客観的な「おいしさ」評価を実施する官能評価室をフード・オープンラボに併設する形で新たに整備する。	指標①	電磁環境試験棟利用企業の実用化製品売上額及びフード・オープンラボ、おいしさ・リサーチラボ利用企業の関連商品売上増加額	1,128,480	千円	-	地方創生に非常に効果的であった。	地方版総合戦略のKPI達成に有効であった	引き続き、フードビジネスや医療機器関連産業等の振興、輸出の促進等に向け、新たなビジネスの創出やICT導入等による生産性の向上などの取組をさらに進める必要がある。	事業の継続	KPI実績値より、一定の企業支援の成果を得たことが確認できるが、コロナ禍の影響で、施設の利用が困難になる状況もあった。今後は、感染症対策を講じた体制を構築し、フードビジネスや医療機器関連産業等の振興、輸出の促進等に向けた支援に取り組む。
2	食品加工研修ラボ整備事業	33,371,968 (16,685,984)	農業大学校内に食品加工研修施設を整備し、農業大学生、農業高校生、地元食品関連企業、農業者を対象に、フードビジネスの現状・課題を共有する交流や、食品加工・製造、商品開発、食品衛生等についての研修、さらには相互の連携、マッチングを実施するとともに、農業大学オリジナル商品の開発・生産、農業大学・農業高校と企業との共同商品開発を行う。	指標①	企業と宮崎県立農業大学校の共同開発による加工食品の販売額	93	千円	-	地方創生に効果があった	地方版総合戦略のKPI達成に有効であった	引き続き、フードビジネスや医療機器関連産業等の振興、輸出の促進等に向け、新たなビジネスの創出やICT導入等による生産性の向上などの取組をさらに進める必要がある。	事業の継続	商品の共同開発を行う企業の確保・連携強化のため、農業大学校の企画提案力の強化とブランド力の向上（農畜産物の高付加価値化等）を図る。また、農業大学校の加工食品の販売額を増加させるため委託販売等を強化するとともに新たな販路獲得に向けた検討を進める。
3	みやざき地頭鶏種鶏増殖施設整備事業	111,988,862 (55,994,431)	みやざき地頭鶏種鶏増殖施設を整備し、みやざき地頭鶏の生産拡大に取り組む。	指標①	生産農家及び関連産業の売上高増加額	1,150,230	千円	-60,011	効果の有無はまだわからない	地方版総合戦略のKPI達成に有効であった	引き続き、関係機関と連携した農林水産業の多様な担い手の確保や、スマート農林水産業等を活用した生産性の向上や省力化に向けて取り組むとともに、物流・販売力の強化を図る必要がある。また、生産額・産出額等の増加のみならず、生産者の所得向上につなげていく必要がある。	事業の継続	種鶏の供給を継続し、効果検証を進めながら、自立化に向け関係機関と検討を進めて行く。
4	「青島の賑わい創出」拠点施設整備事業	123,659,777 (41,250,000)	県立青島亜熱帯植物園の老朽化した果樹温室等を再整備するもの。	指標①	園内カフェ及び隣接施設における観光客による消費額（推計値）	111,108	千円	19,676	地方創生に効果があった	地方版総合戦略のKPI達成に有効であった	新型コロナウイルス感染症により、アウトドアや健康志向の高まり等、人々の価値観や観光ニーズにも大きな変化がみられることから、アフターコロナを見据えて本県の強みを磨き上げるとともに、新たな価値観や観光ニーズに対応した戦略的な誘客が必要である。	事業を継続	コロナによって観光客数が大幅に減少しているが、現在、本事業で整備した施設の周辺において、別事業で整備が進められており、アフターコロナに向けて、これらの周辺施設と一体となって、植物園の魅力向上に努めるとともに、効果検証を進めながら自立化を検討していく。
5	「改良型みやざき地頭鶏」種鶏増殖施設整備事業	85,763,834 (42,881,917)	みやざき地頭鶏種鶏増殖施設を整備し、改良型みやざき地頭鶏の増殖により生産拡大に取り組む。	指標①	種鶏供給開始に伴う事業協の収入増加額	12,507	千円	3,956	効果の有無はまだわからない	地方版総合戦略のKPI達成に有効であった	引き続き、関係機関と連携した農林水産業の多様な担い手の確保や、スマート農林水産業等を活用した生産性の向上や省力化に向けて取り組むとともに、物流・販売力の強化を図る必要がある。また、生産額・産出額等の増加のみならず、生産者の所得向上につなげていく必要がある。	事業を改善	種鶏の供給を継続し、効果検証を進めながら、自立化に向け関係機関と検討を進めて行く。
6	サーフスポット機能向上施設整備事業	62,726,457 (31,363,228)	シャワー室や更衣室等を備えた宮崎県木崎浜サーフセンターの建設	指標①	有料シャワーの売上げ	-	千円	-	効果の有無はまだわからない	地方版総合戦略のKPI達成に有効であった	新型コロナウイルス感染症により、アウトドアや健康志向の高まり等、人々の価値観や観光ニーズにも大きな変化がみられることから、アフターコロナを見据えて本県の強みを磨き上げるとともに、新たな価値観や観光ニーズに対応した戦略的な誘客が必要である。	事業を継続	引き続き、施設運営に必要な収入を安定的に確保し、本県の代表的サーフスポットである木崎浜の魅力向上に努める。